

令和5年度 学校評価【自己評価】の概要について

1 各部等の自己評価

令和5年12月、今年度の目標等について自己評価を行い、反省を行った。

(1) 重点目標

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

重点項目アについては、働き方改革を推進することにより、生徒たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにするとともに、家庭との連携を図れるように検討を進めたい。

重点項目イについては、より充実した指導や活動となるように学科、学年、教科等の連携を積極的に図りたい。

重点項目ウについては、学校生活における規律遵守は向上してきていることから、遅刻・欠席の縮減など、学校生活以外の場面でも向上できるように粘り強く継続した指導を展開したい。

(2) 各部

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

新型コロナウイルス感染症が法律上5類となったことによって教育活動が通常化した。これまで通りの教育活動をただ行うのではなく、生徒たちに対して効果的な教育活動を行うために絶えず見直しを行うとともに、教員の力量向上や人間性及び創造性を高めるために働き方改革についても並行して進めたい。

(3) 各学年

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

今年度在籍する生徒については、新型コロナウイルス感染症の影響により、本校入学前の中学校段階においても通常の教育活動が実施されていない部分もあるため、高校生としての指導はもちろんのこと、生徒の状況を適宜確認しながら、不足している部分についても指導を進めたい。

(4) 各学科

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

各学科において地域連携活動を積極的に実施したほか、インターンシップについても通常実施した。農業高校としてのプライドを持ち、地域を支える産業人を育成すべく、地域に開かれた学校づくりに向けて創意工夫をしたい。

2 生徒・保護者アンケート

令和5年12月、生徒及び保護者へのアンケートを行った。なお、今年度はアンケート作成ツールである「Microsoft Forms」を活用し、Webによるアンケートを実施した。本校としては初めての試みであったが、今後の継続した実施に向け、回収率や記名・無記名等の課題について検討を進めたい。

(1) 生徒アンケート(23項目)

肯定的回答が80%を越えた内容については20項目(昨年度比+8)、肯定的回答が30%を下回った内容については1項目(昨年度比±0)、前年度から肯定的回答が5ポイント以上増加した内容については17項目(昨年度比+17)、前年度から肯定的回答が5ポイント以上低下した内容については0項目(昨年度比-1)であった。新型コロナウイルス感染症が法律上5類となったことによって教育活動が通常化したことにより、充実した学校生活を送ることができるようになったことが一因として考えられる。一方、家庭学習や読書習慣については依然として低い数値であることから、家庭との連携も視野に入れながら指導を展開したい。

(2) 保護者アンケート(19項目)

肯定的回答が80%を越えた内容については13項目(昨年度比+3)、肯定的回答が30%を下回った内容については1項目(昨年度比±0)、前年度から肯定的回答が5ポイント以上増加した内容については3項目(昨年度比+3)、前年度から肯定的内容が5ポイント以上低下した内容については1項目(昨年度比-2)であった。PTA活動や、生徒アンケートと同様に読書について低い数値であることから、関係者と連携し改善について検討を進めたい。

(3) その他

自由記述回答欄については、生徒、保護者ともに、多くの貴重な意見が寄せられた。早急に改善が必要な内容(改善できる内容)、長期的に改善していくべき内容、現実的に改善が難しい内容等、様々な内容が見られるが、昨今の社会情勢や本校の目指す教育等を踏まえたうえで、精査して今後の教育活動を展開したい。また、生徒、保護者ともに本校へ入学して良かったという項目の肯定的回答が90%前後と、昨年度に引き続き非常に高い結果となった。この想いを裏切らないためにも、さらに充実した教育活動を展開したい。